

January 2024
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

ANNIVERSARY

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

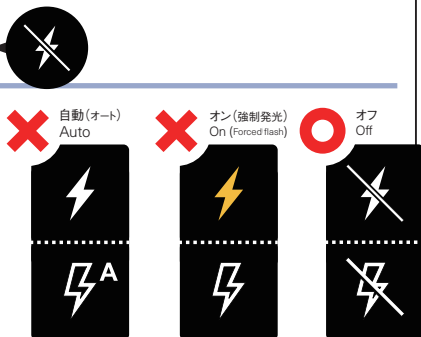
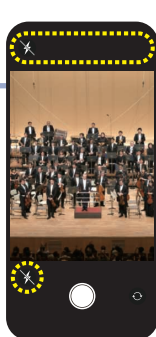


「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは38ページをご覧ください



こちらのQRからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします
Please wear a face mask when shouting "Bravo."

PHILHARMONY

CONTENTS

JANUARY 2024

1

3 [公演プログラム] **Aプログラム**

9 [公演プログラム] **Bプログラム**

14 [公演プログラム] **Cプログラム**

19 [シリーズ] **N響百年史** | 第43回 | 「大改組」第二幕

片山杜秀

23 2024年2月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から

25 チケットのご案内

26 2023–24定期公演プログラム

28 特別公演／各地の公演

32 特別支援・特別協力・賛助会員

36 NHK交響楽団メンバー

37 曲目解説執筆者／Information／お詫びと訂正

38 みなさまの声をお聞かせください！

39 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

40 Program A

43 Program B

46 Program C

48 The Subscription Concerts Program 2023–24

50 N響関連のお知らせ

51 役員等・団友

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第2001回

NHKホール

1/13 土 6:00pm

1/14 日 2:00pm

指揮 トウガン・ソヒエフ

コンサートマスター 伊藤亮太郎

ビゼー(シCHEDリン編)

バレエ音楽「カルメン組曲」[44']

- I 導入
- II 踊り
- III 第1間奏曲
- IV 衛兵の交代
- V カルメンの登場とハバナ
- VI 情景
- VII 第2間奏曲
- VIII ボレロ
- IX 闘牛士
- X 闘牛士とカルメン
- XI アダージョ
- XII 占い
- XIII 終曲

— 休憩(20分) —

ラヴェル

組曲「マ・メール・ロワ」[17']

- I 眠りの森の美女のバヴァーヌ
- II 一寸法師
- III パゴダの女王レドロネット
- IV 美女と野獣の対話
- V 妖精の園

ラヴェル

バレエ音楽「ラ・ヴァルス」[13']

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは38ページをご覧ください



こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

トゥガン・ソヒエフ (指揮)



©Mitsuo Goto/epave

1977年北オセチア共和国(ロシア)のウラジカフカスに生まれ、サンクトペテルブルク音楽院で指揮を名教師イリヤ・ムーシンに師事、さらにユーリ・テミルカーノフにも学ぶ。2008年からトゥールーズ・キャピトル劇場管弦楽団音楽監督として同団の発展に寄与した一方、2012年から2016年まではベルリン・ドイツ交響楽団の首席指揮者を兼任、さらに2014年からはモスクワのポリショイ劇場の音楽監督を務めたほか、

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団をはじめとする名門オーケストラや歌劇場への客演など、コンサートとオペラの両面で国際的に幅広く活動を展開してきた。2022年には愛する母国がウクライナに侵攻したことに心を痛めて、ポリショイ劇場とトゥールーズ・キャピトル劇場管弦楽団の両方のポストを辞任したが、以後も世界中から引く手あまたで、ロシア作品で示すダイナミックなスケール感、フランス作品での洗練されたセンス、ドイツ作品での正統的なアプローチの中での充実した表現など、的確な様式感とパレットの豊かさが高く評価されている。N響にもほぼ毎年客演して名演を聴かせており、今回もフランス、ドイツ、ロシアの3つのプログラムを通して、そうした彼の多様な表現力が発揮されるに違いない。

[寺西基之／音楽評論家]

Program Notes | 田崎直美

近代フランス音楽の、「バレエ上演された」管弦楽曲の特集。まずはジョルジュ・ビゼー(1838～1875)最期の傑作《カルメン》。スペイン情緒あふれるこの歌劇は、一時期バレエを挿入して人気を得たこともあり、バレエとの相性が良い。続くモーリス・ラヴェル(1875～1937)の《マ・メール・ロワ》は、バレエが興隆した17～18世紀フランスのお伽話とぎばなしの世界に繋がる。最後は、同じくラヴェルによる管弦楽のための舞踊詩、《ラ・ヴァルス》。ウィーンの宮殿で練り広げられる幻想的な「バレエの肖像画」(ディアギレフの言)である。

ビゼー(シCHEDリン編)

バレエ音楽「カルメン組曲」

ロシアの代表的作曲家のひとりであるロディオ・シCHEDリン(1932～)は、妻でポリショイ劇場首席バレリーナのマイヤ・プリセツカヤ(1925～2015)のために、ビゼーの代表作《カルメン》をバレエ版へと編曲した。弦楽と4群の打楽器から成る編曲で、彼は、歌劇中のアリアを舞曲化することでドラマを際立たせているほか、5つの音によるロマ(ジプ

シー)風の「運命の動機」^{モティーフ}を要所に出現させて、組曲(全13曲)に統一感を与えている。

第1曲〈導入〉最初の場面は、セビリアの広場。〈ハバネラ〉の断片を奏でる鐘の響き。

第2曲〈踊り〉アラゴネーズとよばれる民族舞踊風パッセージ(第4幕)でカルメンが登場。

第3曲〈第1間奏曲〉悲劇を暗示する「運命の動機」が現れる。

第4曲〈衛兵の交代〉兵舎の当番として、ホセが兵隊の歌とともに登場。

第5曲〈カルメンの登場とハバネラ〉ホセは、アリア〈ハバネラ〉(第1幕)で「恋は野の鳥」と歌うカルメンと出会う。

第6曲〈情景〉場面は変わり、カルメン一行(密輸団)が自由を謳歌^{おうか}している。

第7曲〈第2間奏曲〉カルメンは挑発的にホセを誘惑、ついに彼を仲間^{おんな}に引き入れる。愛と自責の念に苦悩するホセ。

第8曲〈ボレロ〉ここで挿入されるのが、ビゼーの劇音楽《アルルの女》(1872)の〈ファランドール〉(南仏の民族舞踊)だ。この曲は《アルルの女》劇中で、嫉妬^{こいがたき}を暗示する。

第9曲〈闘牛士〉やがてホセの恋仇エスカミーリョが、アリア〈闘牛士の歌〉(第2幕)とともに登場。

第10曲〈闘牛士とカルメン〉惹かれ合う男女の心を映し出すのは、ビゼーの歌劇《美しきパースの娘》(1866)の〈ボヘミア風舞曲〉である。

第11曲〈アダージョ〉その後、ホセのアリア〈花の歌〉(第2幕)が切々と流れる。カルメンが投げつけた花を大切に持ち続けていたホセ。2人の愛の日々の追憶は、このバレエ作品の大きな見せ場となっている。

第12曲〈占い〉しかし、ロマにとって絶対的な存在である「占い」が、カルメンに死を告げる(甲いの鐘の音)。カルメンは悲痛なアリア(第3幕)で、ホセに殺される残酷な宿命に対峙する。

第13曲〈終曲〉闘牛士の入場行進(第4幕)、そして〈情景〉の音楽で闘牛が行われる中、恋人を繋ぎとめようと懇願するホセの歌(第4幕)が響き渡る。しかし「運命の動機」に遮られ、その後応えるのは〈ハバネラ〉の断片。カルメンは身も心も、解き放たれた「野の鳥」となるのである。遠い過去の記憶とカルメンの死が、鐘の音によって静かに重ね合わされる。

※丸括弧の幕番号は、ビゼーによる原曲の歌劇(全4幕)に対応。

作曲年代	[原曲(歌劇)] 1873~1874年 [バレエ版(シCHEDリン編)] 1967年初演
初演	[原曲(歌劇)] 1875年3月3日、パリのオペラ・コミック座 [バレエ版(シCHEDリン編)] 1967年4月20日、モスクワのボリショイ劇場
楽器編成	ティンパニ1、大太鼓、ハイハット・シンバル、中太鼓、グロックンシュピール、シロフォン、マリンバ、ヴィブラフォン、チャイム、アンティーク・シンバル、テンブル・ブロック、ムチ、マラカス、クラベス、カスタネット、フィールド・ドラム、サスペンデッド・シンバル、カウベル、ボンゴ、小太鼓、グイロ、ウッドブロック、シェイカー、トライアングル、タンバリン、トムトム、タムタム、弦楽

組曲「マ・メール・ロワ」

ラヴェルの舞踊に対する嗜好は、懐古趣味と結びつくことが多い。特にバロック期(17～18世紀)の宮廷舞踊は、生涯を通じて彼の作曲の源泉となった。

《マ・メール・ロワ》もこの系譜に連なる。もともとは友人であるゴデブスキ夫妻の子どもたちに献呈したピアノ連弾組曲だが、ほどなくそっくりバレエ化できたのは、着想の源がシャルル・ペロー(1628～1703)の『教訓付き昔話——がちょうおばさん(マ・メール・ロワ)の話』だったためであろう。17世紀フランスの宮廷では、良家の子女の道德教育としてお伽話(妖精物語)が流行していた。ルイ14世の姪に献呈されたこのお伽話集(1697年出版)より、ラヴェルは「眠りの森の美女」をバレエの筋書の中心に据え、前奏曲や間奏曲などを新たに挿入しつつ、各曲を劇中話として再配置した。本日の管弦楽組曲は、こうしたバレエ化のプロセスにおいて生まれた作品である。ここでの曲順・構成はまだ最初に作られたピアノ連弾版と同じである。

第1曲〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉管弦楽版ではまず、2拍子の宮廷舞踊パヴァーヌが、厳かに物語の開始を告げる。

第2曲〈一寸法師〉続くは、道しるべに撒いたパン屑を鳥に食べられてしまい途方に暮れる男の子のお話。古い多声曲(オルガナム)風の響きと鳥のさえずりが、遠くて暗い森の中を想起させる。

第3曲〈パゴダの女王レドロネット〉今度は、ドーワ伯爵夫人(c.1650～1705)作『緑の蛇』の場面。入浴中の女王のそばで陶製のパゴダ(首振人形)たちが木の実の殻を鳴らして一斉に演奏するのは、5音音階の愉快的なガムラン風舞曲である。

第4曲〈美女と野獣の対話〉そして、ポーモン夫人(1711～1780)作のお伽話集『子どもの雑誌』(1756)より「美女と野獣」。優雅なワルツの主題(美女)と、低音で轟くような主題(野獣)の緊迫した対話の果てに、清い心と愛の力で野獣が王子へと変身する。

第5曲〈妖精の園〉最後は、厳かな3拍子の宮廷舞踊サラバンドにのせて王子の愛で100年の眠りから目覚める王女が描かれる。バレエ版では善良な仙女ベニーニュが2人を祝福して幕を閉じる。

作曲年代	[ピアノ連弾版] 1908～1910年 [管弦楽版] 1911年 [バレエ版] 1911年
初演	[ピアノ連弾] 1910年4月20日、独立音楽協会(初回演奏会) [バレエ版] 1912年1月28日、パリのテアトル・デ・ザール [管弦楽版] 1912年8月27日、ロンドンのプロムス音楽祭
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2(コントラファゴット1)、ホルン2、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、シロフォン、ジュ・ドゥ・タンブル、ハープ1、チェレスタ1、弦楽

バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

ラヴェルは若い頃からコスモポリタンであった。そのため、彼がヨハン・シュトラウスII世およびウィンナ・ワルツを礼賛する曲を早い時期(1906年頃)から構想していても不思議ではない。この曲は、ロシア・バレエ団の興行主ディアギレフからバレエ曲を委嘱されたことで、1919年から翌年にかけて一気に完成した(ただし、結局バレエを上演したのはディアギレフではない。初演は、ディアギレフ一座でダンス経験のあったソニア・コルティ振付によって1926年にアントワープで実現し、パリ初演は1929年のイダ・ルビンシュテイン一座の公演を待つことになる)。

ラヴェルが想定した場面は、「1855年頃の(ウィーンの)皇帝の宮殿」。曲は伝統的な2部形式(A-A'またはA-B)ではないが、全体が大きく2つの部分に分けられる。第1部を構成するのは序奏と7つのエピソード(新しいテーマ)で、このうちラヴェルはひとつ目のエピソードに対して次のような筋書きをつけている。「うずまく雲の切れ目から、ワルツ(ヴァルス)を踊る男女たちの姿がときおり垣間見える。雲が少しずつ晴れてきて、輪を描きながら踊る人々であふれかえる広間が見える。次第に舞台は明るくなり、シャンデリアの光が燦然と煌めく」。この最後の部分では、フォルティッシモで奏される、華やかなシンコペーションのリズムのワルツが印象的だ。

しかし、この第1エピソードが終わり、関連するモチーフから成る6つのエピソードが続いた後、曲は全合奏の頂点から急速に下行して、冒頭の暗さを彷彿とさせる第2部へと移行する。ここからはもう新しいエピソードは現れず、第1部で登場したモチーフの断片があたかも亡霊のように、執拗に、そして荒々しく変容していく。「幻想的で、破滅的な運命をもたらす旋回の印象」(ラヴェルの言)が劇的に繰り広げられるなかで、曲は終末を迎えるのである。

不気味で怪奇な雰囲気だが、この作品構想時のラヴェルの言葉を今一度思い起こしたい。「僕が(壮大なワルツの)素晴らしいリズムに心底共感していることを知っている。この舞踊の表現する生きる喜び(la joie de vivre)は(中略)ずっと奥深いよ」(1906年2月7日、ジャン・マルノルドへの手紙)。彼がワルツに見出していたのはヒューマニズム、根源的な「生きる喜び」なのである。

作曲年代	1919年12月～1920年4月
初演	1920年12月12日、サル・ガヴォー [バレエ初演] 1926年10月2日、アントワープのフラマン王立歌劇場
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、カスタネット、タムタム、ジュ・ドゥ・タンブル(グロックンシュピールで代用)、アンティーク・シンバル、ハーブ2、弦楽

A

2024, JANUARY
【第2001回】



気高く情熱的なヒロイン

カルメン

Carmen

赤と黒のドレスに身を包んだカルメンは、誰にも束縛されず、自分の気の向くままに恋をする情熱的なヒロインだ。ホセと恋仲になるも、やがて気持ちは離れ、最後は殺されてしまう。〈ハバネラ〉〈闘牛士〉と誰もが耳にしたことのあるフレーズが盛りだくさんのオペラは、いまでも世界中で演奏されている。〈カルメン〉の大成功を見届けることな

く36歳という若さで亡くなった作曲家ビゼーは、よもやこんなにも長く世界中で愛されるオペラになるとは、夢にも思わなかったことだろう。

シCHEDリンの妻であるバレリーナの
マイヤ・プリゼツカヤが演じるカルメン
奥にいるのは……あっ！
イラストレーション: ©IKE

オペラからも 躍り出てゆくカルメン

《カルメン》のインパクトはもとのオペラの形に留まりきらず、多くの作曲家の手でさまざまにアレンジされている。本日の《カルメン組曲》は、シCHEDリンによる個性あふれる編曲。ほかにもサラサーテやワックスマンそれぞれが《カルメン幻想曲》を作っているし、ホロヴィッツの《カルメンの主題による変奏曲》などもある。情熱的なカルメンのヒロイン像は、作品を飛び出してもなお健在だ。



B

第2003回

サントリーホール

1/24 水 7:00pm

1/25 木 7:00pm

指揮 トウガン・ソヒエフ | プロフィールはp. 4

ヴァイオリン 郷古 廉

ヴィオラ 村上淳一郎

コンサートマスター 藤江扶紀*

◆藤江扶紀：大阪府出身。東京藝術大学卒業後、パリ国立高等音楽院大学院を最優秀の成績で修了。東京交響楽団、京都市交響楽団、ブルガリア国立ソフィア・フィルハーモニー管弦楽団などと共演しているほか、国内外の音楽祭・演奏会に招待され、ソロのみならず室内楽でもリサイタルを行う。2018年よりトゥールーズ・キャピトル劇場管弦楽団コンサートマスター（Co-soliste）。

モーツァルト

ヴァイオリンとヴィオラのための
協奏交響曲 変ホ長調 K. 364 [30']

- I アレグロ・マエストーソ
- II アンダンテ
- III プレスト

— 休憩 (20分) —

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55
「英雄」 [50']

- I アレグロ・コン・ブリオ
- II 葬送行進曲：アダージョ・アッサイ
- III スケルツォ：アレグロ・ヴィヴァーチェトリオ
- IV 終曲：アレグロ・モルト

※当初発表の出演者から変更となりました。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは38ページをご覧ください



こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

郷古 廉 (ヴァイオリン)



1993年生まれ。現在最も注目されている若手ヴァイオリニストのひとり。2006年、第11回ユーディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第1位(史上最年少優勝)。2007年12月のデビュー以来、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などのオーケストラや、ゲルハルト・ボッセ、秋山和慶、井上道義などの指揮者と共演しているほか、サイトウ・キネン・フェスティバル松本(現セイジ・オザワ・松本フェスティバル)、東京・春・音楽祭などの音楽祭にも定期的に招かれている。2013年にはティボール・ヴァルガ・シオン国際ヴァイオリン・コンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。

N響ゲスト・アシスタント・コンサートマスターを経て、2023年4月よりゲスト・コンサートマスターを務めている。使用楽器は1682年製アントニオ・ストラディヴァリ「Banat」。

村上 淳一郎 (ヴィオラ)



桐朋学園大学卒業後、文化庁新進芸術家海外派遣員としてイタリア、フィレンツェに留学。トリエステ国際コンクール(イタリア・トリエステ)第1位を受賞し、当時のイタリア大統領チャンピ氏より金メダルを授与されるほか、イタリア全土、ヨーロッパ各地で約50回のコンサートを提供される。ヴィットリオ・グイ国際音楽コンクール(イタリア・フィレンツェ)第1位。

イタリアからドイツに移りケルンWDR交響楽団ソロ・ヴィオリストに就任、またライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、バンベルク交響楽団等で客演首席奏者として出演のほか、ヨーロッパ各地の音楽祭で独奏者や室内楽奏者として出演。2021年10月よりNHK交響楽団首席ヴィオラ奏者。

Program Notes | 堀 朋平

変ホ長調にはふしぎな深みがある。多くの管楽器には吹きやすいいっぽうで、弦楽器はクリアに鳴らないし、とくに当時は調律上の“唸り”が生じやすいため、曇ったような切なさがあるのだ。この色彩に深い情感を与えたのがモーツァルト。小林秀雄の直観のひそみに倣うなら、そこには「青」のかなしみさえ浮かんでくるだろう(『モーツァルト』)。対するベートーヴェンは、あらゆる調のなかで変ホ長調をいちばん多用し、そのイメージを輝かしく塗りかえた。ひとつの色彩に広がる両極をお楽しみいただく。

ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364

1778年の3月も終わろうという肌寒いある日、マンハイムから9日も馬車にゆられて母子がパリに降りた。母アンナ・マリアと連れだって就職先をさがす長旅の目的地である。

「彼らはまったく粗野に近く、しかも嫌らしいほどに思いあがっています」(5月1日、父レオポルトに宛てた手紙より)。かつて「神童」を歓迎してくれた花の都は、22歳になった青年にはそっけなかったが、そんな冷遇はものともしない。名士たちに溶けこんで各都市の流行をわがものとする才覚に、ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)の天才たるゆえんがある。

そのころパリでは、「協奏交響曲(サンフォニー・コンセルタント)」が公開演奏会を賑わせていた。複数のソロ楽器とオーケストラが歌いかわす華やかなジャンルである。さっそく悪意になった支配人ル・グロのすすめで、宮廷楽団奏者のために4つの管楽器のための作品を書く。これは、おそらくイタリアの人気作曲家の横やりでお蔵入りして消失してしまったものの、この新たなスタイルに惹かれたモーツァルトは帰郷後、ザルツブルク宮廷のソロ奏者を念頭に、もうひとつ協奏交響曲を書いた。それが本作である。

このジャンルで現存する唯一のモーツァルト作品であり、テーマの豊かさと情感の深みの点で、彼の全作品にあってもきわだっている。ヴァイオリンの影に隠れがちなヴィオラに輝きを与えるため、がぜん弾きやすくなりクリアな音が出るニ長調で独奏ヴィオラが記譜されているのも大きな特徴だ。そのため奏者は半音高く調弦することになる。

第1楽章 モーツァルトがそれまでに書いたどの器楽よりも、テーマがつつぎと惜しみなく歌いつがれる。眩暈がするほどに新鮮で、しかも複雑さを感じさせない。

第2楽章 作曲の前年にパリで母を亡くした経験は、音楽づくりに深い陰影をのこした。ハ短調の深い哀切は、ひるがえて前楽章のかなしい明澄さを深めてくれるだろう。本プログラム後半のベートーヴェンによる葬送行進曲(第2楽章)も同じ調だ。

第3楽章 冒頭楽章の晴れやかな雰囲気、いちだんとシンプルに還ってくる。

作曲年代	おそらく1779年あるいは翌年
初演	不詳
楽器編成	オーボエ2、ホルン2、弦楽、ヴァイオリン・ソロ、ヴィオラ・ソロ

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

「これまで書いたうちで最大のものだ、とのことです。(中略)演奏されたら天地を揺るがすでしょう」(1803年10月22日、弟子リースが出版社ジムロックに宛てた一通り)。

ものごとを3つに分けるのは、人の変わらぬ習性だろうか。ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)の歩みを3区分する著作は没後まもなくあらわれ、今も市民権を得ている。第1楽章だけで——ハイドン作品の全楽章とほぼ同等の——700小節におよぶ「最大の」交響曲をもって、第2期の幕が開いた。形式を流動化し、音の奔流によって世界の生成を描きとる《ピアノ・ソナタ第21番「ワルトシュタイン」》や《ラズモフスキー弦楽四重奏曲集》などの名作が、このあと続々と生みだされることになる。「英雄期」とさえよばれる革新期だ。

ところで、上の手紙を書いたリースによる後年(1838年)のやや不正確な回想によって「英雄(エロイカ)」をめぐる情報が錯綜している(さくそう)ので、整理しておこう。この語はスケッチや自筆譜には一切みられない。作曲時(1804年)に使われたのは、もっと具体的な「ボナパルト」だった。敵国フランスとはいえ世界を変革してくれるナポレオン・ボナパルトの歩みに、ベートーヴェンは惹かれていたのである。この語はやがて姿を消し、初版(1806年10月)でようやく「シンフォニア・エロイカ——ある偉大な人物の思い出を記念して」のタイトルがあらわれる。作曲家が、その2か月前にナポレオンの侵攻によって祖国＝神聖ローマ帝国の滅亡を目の当たりにしたこと、遠くギリシヤ・ローマの皇帝にもあこがれていたことを考えあわせると、「ボナパルト」を超えるもっと普遍的な英雄をめぐる4つのイメージが、この交響曲から読みとられてしかるべきだろう。

第1楽章 冒頭の輝かしいテーマと、それに翳りをもたらず(かげず)“蹟き”のモチーフの絡み合いにより、たえず落ち着くことなく英雄は前進する。

第2楽章 英雄の死と哀悼。フランス革命のあとで流行した「葬送行進曲」のスタイルをベートーヴェンはよく知っていた。だがちょうど中央あたりに荘重なフーガが挿入されるなど、ここまで大規模な作例はまれである。

第3楽章 場面は一転し、ホルンが高らかに鳴り響く。狩りに出る英雄のイメージだ。

第4楽章 プロメテウスをめぐる《エロイカ変奏曲》(作品35、1802年)に基づいている。神に反逆してひとびとに火をもたらずギリシヤ神話の英雄だ。これこそが前3楽章に先立つ“核”であったことを、残されたスケッチは伝えている。

作曲年代	1802年秋~1804年
初演	1805年4月7日、ウィーン、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

ナポレオンの皇帝即位の報を受け、
ベートーヴェンは楽譜を破り捨てたという逸話も
「ベートーヴェン」の巻末

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

ベートーヴェン

新たな世界を切り拓く

ルートヴィヒ・ファン・

B

2024

JANUARY

[第2003回]



クラシック音楽を代表する作曲家、ベートーヴェン。とりわけその交響曲はいずれも音楽史に刻まれるような記念碑的な作品だが、《第3番「英雄」》はいよいよ「ベートーヴェンらしさ」が爆発しはじめた時期に書かれた。それまでの作曲家たちによる交響曲とは比較にならないほど拡大した、力強く劇的な作風が確立され、こののちも次々と傑作が生み出された。

ベートーヴェンとナポレオン

新しい音楽を作るという自負のあったベートーヴェン。同じく新しい時代を切り拓く者としてナポレオンを大きく評価し、彼の名を記した《交響曲第3番》の創作も進めていた。しかし、ナポレオンの皇帝即位によって期待は裏切られ、希望はたちまち怒りに変わったという。ベートーヴェンというと、怒りをもエネルギーに昇華するようなイメージがあるが、それは音楽室にあった眼光するどい肖像だけでなく、《英雄》のタイトルをめぐるこのエピソードも、一役買っているにちがいない。

PROGRAM

C

第2002回

NHKホール

1/19 **金** 7:30pm

1/20 **土** 2:00pm

指揮 トウガン・ソヒエフ | プロフィールはp. 4

コンサートマスター 郷古 廉

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

19日(金)6:45pm~/20日(土)1:15pm~

ヴァイオリン:後藤 康、横島礼理 ヴィオラ:中村翔太郎 チェロ:市 寛也

モソロフ/弦楽四重奏曲 第1番 作品24—第3楽章:スケルツォ、第4楽章:終曲

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

リヤードフ

交響詩「キキモラ」作品63[7']

プロコフィエフ(ソヒエフ編)

バレエ組曲「ロメオとジュリエット」[45']

- I モンタギュー家とキャピュレット家(《組曲第2番第1曲》)
- II 少女ジュリエット(《組曲第2番》第2曲)
- III 修道士ロレンス(《組曲第2番》第3曲)
- IV 踊り(《組曲第2番》第4曲)
- V ロメオとジュリエットの別れ(《組曲第2番》第5曲)

VI 朝の踊り(《組曲第3番》第2曲)

VII アンティル諸島から来た娘たちの踊り
(《組曲第2番》第6曲)

VIII 朝の歌(《組曲第3番》第5曲)

IX ジュリエットの墓の前のロメオ
(《組曲第2番》第7曲)

X 仮面(《組曲第1番》第5曲)

XI タイボルトの死(《組曲第1番》第7曲)

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは38ページをご覧ください



こちらのQRから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ロシア・ソヴィエトの作曲家、リャードフとプロコフィエフによる晩年の傑作が並んだプログラム。音を描写するような絵画的表現で「音の細密画家」の異名を持つリャードフとわずか一音の微妙な変化音で独自性を獲得し、「音楽のエンジニア」とも呼称されたプロコフィエフ。激動の時代を交差した2人の記念碑的作品は、天地を突き抜ける壮大な響きとなって、過去から現在、そして未来へと生きる希望を与えてくれることだろう。

リャードフ

交響詩「キキモラ」作品63

19世紀から20世紀にかけて活躍したロシアの作曲家アナトーリ・リャードフ(1855～1914)は、音楽家一家に生まれ、芸術的な環境に恵まれていたが、厳しい自己批判の精神を持っていたため、創作活動では労力を要する大規模な作品より、むしろ絵画的な管弦楽曲やピアノ小品などにおいて音楽的な独創性を発揮した。その職人芸的な精巧さは「細密画風(ミアチュール)」と形容されることが多い。ピアニストでもあり、生涯に渡ってピアノ作品を作曲し続けるという創作姿勢は、弟子のプロコフィエフとも共通する。

晩年の名作となった《キキモラ》は「管弦楽のための民話」という副題を持ち、未完のオペラ《シンデレラ》の音楽的構想を用いて創作された。標題の「キキモラ」とは、I. P. サハロフの『ロシア民間説話集』(1849)から題材を得た邪神のことを指す。岩山の魔法使いのもとに住むキキモラの存在が俊敏な音の動きで幻想的に表現される。

第1部(アダージョ、ホ短調、4/4拍子)と第2部(プレスト、3/4拍子)という対照的なテンポによる2部構成。リャードフ特有の超自然的な世界が作品に具現化される。各々のモチーフが異なる意味を持ち、イングリッシュ・ホルンによる猫のテーマ、ピッコロとオーボエによるキキモラのテーマ、チェレスタによる水晶の揺りかごのテーマなどが次々に提示される。動き回ったり、高笑いをしたりするキキモラのイメージは、さまざまな音型的な変化を伴い、神秘的かつ躍動的な響きのなかで変幻自在に描写される。

作曲年代	1909年
初演	1909年12月12日、アレクサンドル・ジロティ指揮、サンクトペテルブルク
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、シロフォン、チェレスタ、弦楽

バレエ組曲「ロメオとジュリエット」

20世紀ロシアの作曲家セルゲイ・プロコフィエフ(1891~1953)は、長年の海外生活のあと、社会主義リアリズムが加速する1930年代に祖国へ帰還。スターリンによる芸術統制のなか、映画音楽や劇音楽などの異なるジャンルの数多くの作品を同時進行で創作した。

シェークスピアの恋愛悲劇『ロメオとジュリエット』を題材とした音楽作品は、19世紀のベルリオーズ、グノー、チャイコフスキーに前例があるが、本作はバレエの委嘱を受けて創作されたもので、音楽的な規模や内容面で傑出した存在感を示している。原曲のバレエ音楽は全4幕(52曲)の構成。管弦楽版の《組曲第1番》(全7曲)、《第2番》(全7曲)、《第3番》(全6曲)のほかにピアノ編曲版(10曲)も創作された。バレエ音楽では、振付師のラヴロフスキー、演出家で学者のラドロフ、劇作家のピオトロフスキーの協力を得て台本を仕上げ、原作のマイナーな場面をも忠実にバレエ化させた。愛と憎しみ、喜びと悲しみ、生と死という対極的な概念のなかで、登場人物の個性、心情変化、情景描写が、ライトモチーフで効果的に表現される。組曲では物語の進行と対応せず、原曲から抜粋された曲同士が結合や省略を経て再構成されている。本公演では指揮者トゥガン・ソヒエフ氏による選曲順で演奏される。

〈モンタギュー家とキャピュレット家〉(組曲2-1)―アンダンテ。不協和音の響きでヴェローナ大公が両家の抗争を鎮圧する場面が描写されたあと、アレグロ・ペザンテで上下行する分散和音の音型で踊りが表現される。

〈少女ジュリエット〉(組曲2-2)―ヴィヴァーチェ。急速な全音階的音型で初々しいジュリエット像が描写される。

〈修道士ロレンス〉(組曲2-3)―アンダンテ・エスプレッシヴォ。叙情的な旋律が僧ロレンスの優しく温かい人間性を映し出す。

〈踊り〉(組曲2-4)―ヴィーヴォ。半音階的音型による変化音や調性をスライド的にずらす独自の技法が駆使される。

〈ロメオとジュリエットの別れ〉(組曲2-5)―レント。ドルチェッシモによる優美で魅力的なフルートのソロ。死の主題も含み、2人の別れの情景が描写される。

〈朝の踊り〉(組曲3-2)―アレグロ。スタッカートの同音反復を含む活動的な音型で民衆の歓喜の踊りが表現される。

〈アンティル諸島から来た娘たちの踊り〉(組曲2-6)―アンダンテ・コン・エレガンツァ。優雅さと不穏さを備えた神秘的な踊り。上下行の半音階的音型が異国風の響きをもたらす。

〈朝の歌〉(組曲3-5)―アンダンテ・ジョコーソ。牧歌的で瑞々しい^{みずみず}チェレスタの旋律と

弦楽器の急速なパッセージで新鮮な朝が描写される。

〈ジュリエットの墓の前のロメオ〉(組曲2-7)―アダージョ・フーネブレ。悲壮感が表出された死の主題が音響的な強調等を伴って回想される。

〈仮面〉(組曲1-5)―アンダンテ・マルチアーレ。マーチ風の曲調で、仮装したロメオたちの期待と高揚感が表現される。

〈タイボルトの死〉(組曲1-7)―プレチピタート。急速に疾走するテンポでマーキュシオや戦いの主題を提示。特有の半音階的音型やリディア旋法の使用もみられる。

作曲年代	1935～1936年
初演	[組曲第1番] 1936年11月24日、セバスチャン指揮、モスクワ [組曲第2番] 1937年4月15日、作曲者自身による指揮、レニングラード [組曲第3番] 1946年3月8日、デクチャレンコ指揮、モスクワ
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、テナー・サクソフォーン1、ホルン4、トランペット3(コルネット1)、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、小太鼓、トライアングル、タンブリン、グロッケンシュピール、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、シロフォン、マラカス、ウッド・ブロック、ハープ1、ピアノ1、チェレスタ1、弦楽



19 & 20 JAN 2024

C

2024
JANUARY
[第2002回]

鮮鋭で力強い構成感に独特のユーモアが光る

セルゲイ・プロコフィエフ

Sergei Prokofiev (1891–1953)

プロコフィエフは、苦難の時代を生きた作曲家だ。サンクトペテルブルク音楽院を卒業してまもなく、世の中は第1次世界大戦、ロシア革命という混乱の時代に突入し、ストラヴィンスキーやラフマニノフといった年上の作曲家たちは次々にロシアを離れてゆく。プロコフィエフ自身は、いわく「遠からず母国に戻る」つもりで拠点を海外へと移したものの、20年近くを経てソ連へと帰国。スターリンの文化政策による制約のなかでも、鋭いセンスとユーモアを含んだ作品を多く残した。

プロコフィエフとチェス

幼い頃から音楽の才能を発揮したプロコフィエフは、同じ頃からチェスの面白さにも目覚めていた。その腕前はなかなかのもので、学生時代の音楽院ではピカイチだったようだ。チェスのトーナメントや試合にもたびたび参加して元世界チャンピオン・カパブランカと手合わせをしたこともあり、その後、彼とは友情を育んでいる。

チェスを両家の抗争と見立て
《ロメオとジュリエット》の
曲想を練るプロコフィエフ
イラストレーション ©IKE



N響百年史

第四十三回 ―「大改組」第二幕

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。半年の洋行から得意満面、帰還した近衛秀麿を待っていたのは、ひそかに謀反の策謀をめぐる楽員たちでした――

楽団員たちの深謀遠慮

やられる前にやれ。^{このえひでまる}近衛秀麿は時機をみて楽団員の大幅入れ替えをきつとましようとするだろう。その前に近衛から権力を削ぎ落とし、ただ指揮するだけの楽団員のひとりという立場にしてしまえ！ 1933(昭和8)年秋から近衛が半年も洋行し、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮したりしているあいだ、楽団員たちは結束を固めた。^{まほん}急いで事は仕損じる。たっぷり時間をかけて、周到に策を練っていった。帰国した近衛は空気のおかしさを感じながらも、まさか謀反は起こるまい、近衛の名声と実力あってかろうじてもっているのが新交響楽団なのだ、どこかまだ高をくくっている。

近衛帰国直後、1934(昭和9)年4月から6月までの5回の定期公演(当時は予約演奏会)は、近衛とレオニード・クロイツァーとが分担して指揮し、表向きは順調に進んだ。クロイツァーはベルリンから近衛が連れてきた。ロシアに生まれ育ったユダヤ人で、サンクトペテルブルクに学び、ドイツに移ってベルリンで名ピアニストかつ名ピアノ教授として君臨していた。が、ナチスの政権獲得によって、新たな行き場を探さねばならなくなった。そこで近衛が日本に誘った。1931(昭和6)年に初来日していたので、このときは2度目。それから米国に渡るも、1935(昭和10)年に日本に戻り、1953(昭和28)年に亡くなるまでこの国を動かなかつた。東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)でピアノを教え、門弟は引きも切らず。そんなクロイツァーは指揮もした。1934年の東京では、近衛とブラームスの《ピアノ協奏曲第1番》を共演したり、リストの《交響詩「レ・プレリュード」》や《交響詩「オルフェウス」》を振ったり。旧時代的だがさすがの貫禄と評判

を呼んだ。

そんなこんなで夏休み。楽団員側は満を持して一の矢を放つ。近衛の意を酌みつつ、オーケストラの事務方全般を取り仕切っていた原善一郎を、たっぷり時間をかけて排除しようとする。楽団員を代表して運営委員会の委員を務める齋藤秀雄、日比野愛次、大津三郎、瀧川廣、加藤嘉一らは、近衛にたくみに言い寄る。楽団を純然たる演奏団体とし、マネージメント部門は外部化しようではないか。マネージャーはむろん原のままでよいのだ。そのほうが組織として明快になるし、会計も明朗になるだろう。「事務所をオーケストラと別箇の存在にして原善一郎事務所とし、音楽マネージを一手に引受け」させ、「オーケストラは別箇の自治体として年十五回の定期公演を原事務所と契約して公演」するようにしよう。

近衛と原を切り離す戦略だ。けれど近衛は楽団員側の真の意図を見抜けない。やはりおめでたいところがある。内々に相談されたとき、首を縦に振ってしまったらしい。9月に運営委員は改選される。日比野のほかは、小森宗太郎、大熊次郎、大村卯七、寺田日瑳三に代わる。大熊と大村はともにチェロ奏者。齋藤に直結している。旧委員も新委員も志は同じ。原を追い出し、近衛が楽団員の人事に口をはさめなくする。彼らはひとえにそのために、齋藤らを核として深謀遠慮をめぐらせる。

ひたひたと進む計略

新旧委員の揃った9月の運営委員会は、近衛と原に、まずは新たな組織形態、すなわち演奏とマネージメントの分離を正式に承認させる。近衛が反撃するならこのときだったかもし

れない。でもすでに近衛は夏のうちに内諾してしまっていたのだ。原は外からでもこれまでと同様にオーケストラを近衛第一に切り回してくれるだろう。とはいえ、すぐに原を外に出すのは無理だ。秋の定期公演は9月30日の第143回から始まる。近衛がストラヴィンスキーの《プルチネッラ》の組曲版を振る。10月の第144回には、チェロ界の世界的大スター、エマヌエル・フォイアマンが来日して、ドヴォルザークの《チェロ協奏曲》を近衛と共演する。コンサートの立て込むシーズン中に急な組織変更はよろしくない。近衛と原はそう言い、楽団員側もそこは織り込み済みだ。新運営方式の実施は1935年1月と定まり、いやいや、年度替わりのほうが会計に好都合だというので、さらに4月に延びた。楽団員側はじっぴりかまえて待っている。

4月が訪れる。いよいよ原善一郎事務所の始動だ。1935年春の定期公演は、近衛の対外的人脈がよく機能して外来ソリストも華やかである。4月の第153回には初来日のアルトゥール・ルビンシュタインが登場。サン・サーンスとブラームスのともに第2番のピアノ協奏曲を近衛と共演する。5月の第156回はエフレム・ジンバリスト。日本ではもうおなじみのヴァイオリニスト。新交響楽団ともたびたび共演してきた。モーツァルトの《第5番「トルコ風」》とメンデルスゾーンの協奏曲をやはり近衛と一緒に。そして春のシーズンを結ぶ定期公演は6月5日の第157回。近衛の指揮で大物を出す。ベートーヴェンの《歌劇「フィデリオ」》の演奏会形式による上演。歌手はマリア・トル、徳山環、矢田部勤吉、大田黒養二、木下保、ヘルマン・ウーハーペーニヒ。上野の東京音楽学校の教授陣が主体だ。近衛がさくさくと運び、好評を博した。秋の楽季への期待が膨らんだ。でも、実は近衛に新交響楽団を振る秋はなかったのだ。

謀反勃発

事件は6月19日のジンバリストの告別演奏会をきっかけに起こされた。神宮外苑の日本青年館で近衛の指揮する新交響楽団が共演し、ベートーヴェンとブラームスの協奏曲をいっぺんに弾くというもの。楽団員側はこのタイミングを狙っていた。定期公演は一区切りついたところ。秋の次の楽季の始まる9月までが決戦の季節と設定されていた。マネージメントを取り仕切っていたのはもちろん原だ。楽団員側はこのコンサートの会計に物言いを付ける。この日の新交響楽団はジンバリストの側に依頼されて演奏するという立場。出演料は550円。しかもこの価格は土壇場になってオーケストラに何の相談もなく、ジンバリストの呼び屋である上海の音楽マネージャー、ストロークの事務所と、原のあいだで勝手に決めたものだ。原善一郎事務所と新交響楽団との契約では出演料については事前相談をすると約束していたはずだが、守られていない。いや、それだけではない。そもそも550円という金額が安すぎるのではないか。かたやジンバリストはというと、定期公演出演時の報酬から推定して1300円くらいだろう。では6月19日の演奏会の総収入はいくらだったのか。楽団員側は4500円という推定値を出してくる。4500 - (550 + 1300) = 2650。会場費や宣伝費の諸経費を考えても差額が大きすぎる。新交響楽団にもっと還元されるべきだ。中間搾取にもほどがある。原善一郎事務所は信用できない!

原は色をなして反論する。6月18日までの前売り収入は1700円どまり。しかも19日は天気予報では雨だった。日本青年館のあたりは泥道になる。そうすると当日券の客の出足は大幅に鈍るのだ。楽団員諸君も昔からそのことはいやと

いうほど知っているだろう。日本青年館は日比谷公会堂に移る前の定期公演の会場だったのだから。となるとオーケストラの取り分は500円くらいが限界だ。だからその線で契約した。ところがふたを開けてみると19日は晴れ。当日券の売り上げは1000円になった。それでも1700 + 1000 = 2700。楽団員側の主張する4500円とはいったいどこから出てきた数字なのか。しかも主催はストロークの事務所なのだから、当日券が多少出たからといって、オーケストラのギャランティを上げろとは言えない。原の主張である。だが、オーケストラはひるまない。他の演奏会の個々の数字や楽団全体の会計に次々と疑義を突きつけ、ついには原の銀座の事務所代が高すぎるから、事務所をただちに畳んで新交響楽団の荏原の練習場に引っ越せと要求する。楽団員側はとにかく原を辞めさせたかったのだ。近衛と原のコンビが、楽団の規約も作らせず、楽団員に身分の保障を与えず、給与も低水準に抑え込んで、儲かっても楽団員に還元せず、おまけにいつもプレイヤーの取り換えの機会を狙っている。そこでまず原を追い出すのが楽団員本位の新交響楽団に改めるためには必須だ。楽団員側の硬い意志であった。原はおのれの立場を悟った。ここまで反りの合わなくなったオーケストラのマネージメントをまさか続けられようはずもない。6月28日、原は近衛に、新交響楽団のいっさいから手を引くと伝えた。

決裂への序奏

楽団運営に関する近衛の片腕、いや、両腕ともいうべき原は、こうしていなくなった。近衛は取り残された。そこから第2幕が始まるのか。近衛と楽団員側の天下分け目の関ヶ原となる

のか。そうではなかった。楽団員側からすれば、原を退場させる前に、近衛との戦いも済んでいたのである。近衛の1933年からの渡欧のあいだに、楽団員側が、齋藤をひとつの核とする運営委員会を中心に結束を固め、近衛の帰国後に近衛と原に圧力をかけ、種々の要求を通そうとしてきた経過についてはそれなりに触れてきた。その要求の中には、原を楽団から分離することのほかに、新交響楽団結成以来、ずっとなまの楽団の規約をいいかげん作ろうということが含まれていた。それがいつの間にかできていた。ルビンシュタイン、ジンバリストと共演し、《フィデリオ》の演奏もやりとげて、それでも次のコンサートやら放送出演の準備に追われている近衛のところ、運営委員の誰かが書類を持って現れた。《フィデリオ》のコンサートの翌々日の6月7日のことである。サインをしてくれという。運営委員はきちんと説明したと言うし、近衛は何だかよく分かっていなかったと言う。とにかくそれは楽団員の総意のもとについに成案を

見た新交響楽団規約であった。第19条はこうである。

「団員ノ除名^{オヨビ}及 団員脱退ノ承認ハ被除名者又ハ脱退希望者ヲ除ク他ノ全員ノ一致ヲ以テ之ヲ為ス」。技量を向上させるために音楽監督はメンバーを取り換える権能を有していなければならない。そこを譲れない近衛にとっては絶対に認められない規約案。忙しさに取り紛れ^{まぎれ}、気もそぞろの近衛は、それをよく読まずにサインしてしまった。原をめぐる騒動が起きる前。楽団員に対する警戒心も近衛には足りていなかった。近衛は知らないうちに崖^{がけ}から落ちていた。

文 | 片山杜秀(かたやまもりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2024年2月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

今月登場する3人が指揮したコロナ渦中の公演は、皆それぞれに忘れられないものだった。悠然と流れる大植英次のシベリウス《第2番》。同じシベリウスでも、井上道義の《第7番》は冷厳たるモノトーンの世界で、ベートーヴェン《英雄》とのコントラストが鮮やかだった。公演中止が相次ぐ中、紙一重で実現に漕ぎつけたパブロ・エラス・カサドの力強い《第9》は、2020年のハイライトと言ってよい。

3人が思う存分、得意なプログラムを指揮できる日が来たことを喜びたい。

信じる道を命がけて突き進む 井上“最後のN響定期”

[Aプログラム]の《バビ・ヤール》は、第2次世界大戦下のウクライナで起きた、ナチス・ドイツによるユダヤ人の大量虐殺がテーマである。銃殺される直前、谷底に自ら飛び込んで難を逃れたという、生存者の体験談が伝わる。「想像を絶する現実を前に、音楽を奏でる意味があるのか」と、自問自答を繰り返す井上道義。だが常に問い続ける姿勢こそが、指揮者・井上の本質なのだ。

《ポルカ「クラップフェンの森で」》の原題は「パヴロフスクの森で」。ウィーン音楽のイメ

ジがあるが、もともとはロシア皇帝の離宮を囲む、貴族の別荘地が舞台である。鳥のさえずる平和な光景は、革命により一変した。

続く《舞台管弦楽のための組曲 第1番》は、同じ舞曲でも、まるで異なる様相を呈する。有名な〈ワルツ第2番〉は、ソ連のプロパガンダ映画で使われた。音楽はここで、革命をたたえるアイテムのひとつに変貌している。

今年限りでの引退を表明した井上道義。これは彼が指揮する最後のN響定期である。信じる道を命がけて突き進むマエストロの音楽が、時としてどれほど魅力的に響いたか。唯一無二の機会を逃してはなるまい。

得意の後期ロマン派で大植が生み出す スケールの大きな音楽

[Cプログラム]の指揮は大植英次。四半世紀ぶりの定期招聘は、2021年の共演を受けてのことである。さまざまな制約がある中、最小限の指示でオーケストラをまとめ、スケールの大きな音楽を生み出す手腕は、内外から高く評価された。今回初めて、最も得意とするドイツ後期ロマン派で、N響とがっぶり四つに組む。

《英雄の生涯》はいかにもR. シュトラウスらしい華麗なオーケストレーションで、指揮者に

としては“鳴らし甲斐”のある曲。経験を重ねた指揮者にしか出せない、絶妙な響きのブランド感が生まれることを期待したい。

前半はワーグナー《ジークフリートの牧歌》。ジークフリートは彼の愛息の名前であり、《ニーベルングの指環》で活躍する英雄の名前でもある。2つの作品には同じ主題が用いられている。後半のシュトラウスとは、“英雄”で繋がるが、こちらは終始穏やかな、心安らぐ音楽である。

エラス・カサドが贈る 祖国スペインにちなんだプログラム

[Bプログラム]では、パブロ・エラス・カサドが、祖国スペインにちなんだ音楽を取り上げる。ラヴェル《スペイン狂詩曲》は、20世紀初頭のフランスで花開いた異国趣味の産物。けだるい音階に導かれて、マラゲーニャやハバネ

ラといった舞曲がスペイン風の情緒を醸し出す。この曲を絶賛したというファリャ。その代表作《三角帽子》では、フラメンコのリズムが躍動する。民族舞踊“ホタ”で終曲を盛り上げる手法は、ラヴェルにも似て極めて効果的だ。エラス・カサドの歯切れのよさにN響のパワーが加われば、“鬼に金棒”の名演が生まれることだろう。

プロコフィエフ《ヴァイオリン協奏曲第2番》は、マドリードで初演された。瞑想的な第1楽章に続くのは、アウグスティン・ハーデリヒが「ヴァイオリン音楽史上、最も偉大な旋律」とたたえる第2楽章。さらにはハバネラ風のリズムにカスタネットも加わり、目くるめく熱狂で終わる第3楽章。スペインのエッセンスに染まる一夜が満喫できるはずだ。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 2/3 土
6:00pm
2/4 日
2:00pm

NHKホール

ヨハン・シュトラウスII世／ポルカ「クラップフェンの森で」作品336
ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番
—「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」「ワルツ第2番」
ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビヤール」*

指揮：井上道義
バス：アレクセイ・ティホミーロフ**
男声合唱：オルフェイ・ドレンガル男声合唱団*

*当初発表の出演者から変更となりました。



B 2/14 水
7:00pm
2/15 木
7:00pm

サントリーホール

ラヴェル／スペイン狂詩曲
プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番ト短調 作品63
ファリャ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)*

指揮：パブロ・エラス・カサド
ヴァイオリン：アウグスティン・ハーデリヒ
ソプラノ：吉田珠代*



C 2/9 金
7:30pm
2/10 土
2:00pm

NHKホール

ワーグナー／ジークフリートの牧歌
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40
指揮：大植英次



チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行) / 2024年2月16日[金](一般)

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A-Cプログラムのユースチケット定期会員券D席料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	1-2月	発売中
	4-5-6月	2024年2月28日[水](定期会員先行) / 2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※[WEBセレクト3+]の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502	●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業 ●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業	

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2023-24定期公演プログラム

2024 01	A	第2001回	舞台音楽に通曉するソビエフのフランス&ロシア バレエ音楽の精華 ピゼー(シチュドン編)/バレエ音楽「カルメン組曲」 ラヴェル/組曲「マ・メール・ロフ」 ラヴェル/バレエ音楽「ラ・ヴァルス」	一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
		1/13(土) 6:00pm 1/14(日) 2:00pm	NHKホール	指揮:トゥガン・ソビエフ
	B	第2003回	N響が誇るトップ奏者たちがモーツァルトで腕を振るう モーツァルト/ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364 ベートーヴェン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
2024 02	A	第2002回	ソビエフが切実に描く 恋人たちの悲劇 リヤードフ/交響詩「キキモラ」作品63 プロコフィエフ(ソビエフ編)/バレエ組曲「ロメオとジュリエット」	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		1/19(金) 7:30pm 1/20(土) 2:00pm	NHKホール	指揮:トゥガン・ソビエフ
	B	第2004回	井上道義 最後のN響定期でシヨスタコーヴィチの問題作を問う ヨハン・シュトラウスII世/ホルカ「クラップフェンの森で」作品336 シヨスタコーヴィチ/舞台管弦楽のための組曲 第1番 —「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなホルカ」「ワルツ第2番」 シヨスタコーヴィチ/交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「パビ・ヤール」*	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
2024 04	A	第2006回	エラス・カサド 母国の名作を携え5年ぶりにN響定期登場 ラヴェル/スペイン狂詩曲 プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63 ファリャ/バレエ音楽「三角帽子」(全曲)*	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		2/14(水) 7:00pm 2/15(木) 7:00pm	サントリーホール	指揮:ハブロ・エラス・カサド ヴァイオリン:アウグスティン・ハーテリヒ ソプラノ:吉田珠代*
	C	第2005回	情熱の人 大植英次 四半世紀を経て再びN響定期の舞台に ワーグナー/ジークフリートの牧歌 R.シュトラウス/交響詩「英雄の生涯」作品40	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
2024 04	A	第2007回	妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓くブラームス(第1番)の新たな世界 シューベルト/交響曲 第4番 八短調 D.417「悲劇的」 ブラームス/交響曲 第1番 八短調 作品68	一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
		4/13(土) 6:00pm 4/14(日) 2:00pm	NHKホール	指揮:マレク・ヤノフスキ
	B	第2009回	巨匠が生涯をかけて探究する シューマンの奥深き世界 シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 シューマン/チェロ協奏曲 イ短調 作品129 シューマン/交響曲 第2番 八長調 作品61	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
C	第2008回	巨匠エッセンバッハ 満を持してブルクナーをN響で初披露 ブルクナー/交響曲 第7番 ホ長調	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
	4/19(金) 7:30pm 4/20(土) 2:00pm	NHKホール	指揮:クリストフ・エッセンバッハ	

(料金はすべて税込)

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2024 05	A	第2010回	眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い	一般	ユースチケット
		5/11 [土] 6:00pm	パンフィリ／戦いを生きる [日本初演]	S ¥9,800	S ¥4,500
	5/12 [日] 2:00pm	レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」	A ¥8,400	A ¥4,000	
		レスピーギ／交響詩「ローマの松」	B ¥6,700	B ¥3,300	
		レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」	C ¥5,400	C ¥2,500	
		指揮:ファビオ・ルイーゼ	D ¥4,400	D ¥1,800	
	NHKホール		E ¥2,800	E ¥1,400	
2024 05	B	第2012回	デンマーク国立響のシェフ ルイーゼがN響でニルセンを初披露	一般	ユースチケット
		5/22 [水] 7:00pm	ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15	S ¥9,800	S ¥4,500
	5/23 [木] 7:00pm	ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」	A ¥8,400	A ¥4,000	
		指揮:ファビオ・ルイーゼ	B ¥6,700	B ¥3,300	
		ピアノ:ノルドルフ・フブンダー	C ¥5,400	C ¥2,500	
		サントリーホール		D ¥4,400	D ¥1,800
2024 05	C	第2011回	ルイーゼ&N響のメンデルスゾーン第2弾《夏の夜の夢》&《宗教改革》	一般	ユースチケット
		5/17 [金] 7:30pm	メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽	S ¥7,600	S ¥3,500
	5/18 [土] 2:00pm	—「序曲」[夜想曲][スケルツォ][結婚行進曲]	A ¥6,700	A ¥3,000	
		メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」	B ¥5,300	B ¥2,400	
		指揮:ファビオ・ルイーゼ	C ¥4,300	C ¥1,900	
		NHKホール		D ¥3,300	D ¥1,400
			E ¥1,600	E ¥800	
2024 06	A	第2013回	盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャーピンの世界	一般	ユースチケット
		6/8 [土] 6:00pm	スクリャーピン／夢想 作品24	S ¥9,100	S ¥4,000
	6/9 [日] 2:00pm	スクリャーピン／ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20	A ¥7,600	A ¥3,500	
		スクリャーピン／交響曲 第2番 八短調 作品29	B ¥5,900	B ¥2,800	
		指揮:原田慶太楼	C ¥4,800	C ¥2,100	
		ピアノ:反田恭平	D ¥3,800	D ¥1,500	
	NHKホール		E ¥2,000	E ¥1,000	
2024 06	B	第2015回	楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く	一般	ユースチケット
		6/19 [水] 7:00pm	ウェーベルン／バツサカリヤ 作品1	S ¥9,800	S ¥4,500
	6/20 [木] 7:00pm	シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36	A ¥8,400	A ¥4,000	
		バツハ(ウェーベルン編)／リチエルカータ	B ¥6,700	B ¥3,300	
		シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485	C ¥5,400	C ¥2,500	
		指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト	D ¥4,400	D ¥1,800	
	サントリーホール				
2024 06	C	第2014回	定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム	一般	ユースチケット
		6/14 [金] 7:30pm	イベール／寄港地	S ¥7,600	S ¥3,500
	6/15 [土] 2:00pm	ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲	A ¥6,700	A ¥3,000	
		ドビュッシー／夜想曲*	B ¥5,300	B ¥2,400	
	指揮:沖澤のどか	C ¥4,300	C ¥1,900		
	NHKホール	ピアノ:デニス・コジュビン 女声合唱:東京混声合唱団*	D ¥3,300	D ¥1,400	
			E ¥1,600	E ¥800	

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

Cプログラムについて

- ・休憩のない、60～80分程度の公演となります。
- ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。

お知らせ

来季2024-25シーズンよりBプログラムの日程を「木曜7:00pm / 金曜7:00pm」に変更させていただきます。

特別公演

3/9(土) 4:00pm | N響 大河ドラマ&名曲コンサート

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:キンポー・イシイ ヴァイオリン:三浦文彰* 特別ゲスト:高橋英樹 ゲスト:坂田晃一 ナビゲーター:山田美也子

[第1部 大河ドラマ編]

黄金の日日(1978/池辺晋一郎)

どうする家康(2023/稲本響)

春の坂道(1971/三善晃)

国盗り物語(1973/林光)

花神(1977/林光)

山河燃ゆ(1984/林光)

おんな太閤記(1981/坂田晃一)

いのち(1986/坂田晃一)

真田丸(2016/服部隆之)*

光る君へ(2024/冬野ユミ)

[第2部 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

ヴィヴァルディ/「四季」—「春」*

スメタナ/交響詩「モルダウ」

J.シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

料金(税込):一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席7,000円 C席6,000円

ユースチケット(25歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,500円 C席3,000円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 後援:豊島区 お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am ~ 開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

1/27(土) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮: トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン: 郷古 廉 (N響ゲスト・コンサートマスター) ヴィオラ: 村上淳一郎 (N響首席ヴィオラ奏者)
モーツァルト / ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364
ベートーヴェン / 交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催: NHK大阪放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ: NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

2/18(日) 4:30pm | NHK交響楽団特別公演 パプロ・エラス・カサド & 牛田智大

RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おのみや)大ホール

指揮: パプロ・エラス・カサド ピアノ: 牛田智大
ベートーヴェン / 序曲「コリオラン」作品62
モーツァルト / ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491
ベートーヴェン / 交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催: (公財)さいたま市文化振興事業団 お問い合わせ: RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おのみや) TEL (048) 641-6131

2/21(水) 7:00pm | 2024都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 55

東京芸術劇場コンサートホール

指揮: 沼尻竜典 チェロ: カミュー・トマ
ドヴォルザーク / スラヴ舞曲 第1集-第1番 ハ長調 作品46-1
ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 口短調 作品104
シューマン / 交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

主催・お問い合わせ: (公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

2/22(木) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 松本公演

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催: NHK長野放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

2/24(土) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 新潟公演

新潟市民芸術文化会館 りゅーとぴあ

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催: NHK新潟放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

2/25日 5:00pm | NHK交響楽団金沢特別公演

金沢歌劇座

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:石川テレビ、北陸中日新聞、サンライズプロモーション東京 お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

3/1日 7:00pm | NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

パルテノン多摩 大ホール

指揮、クラリネット*:アンドレアス・オッテンザマー

～オール・ブラームス・プログラム～

ブラームス/大学祝典序曲 作品80

ブラームス(ブートラック&オッテンザマー編)/クラリネット・ソナタ 第1番 へ短調 作品120-1*

ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

ブラームス/ハンガリー舞曲集—第1番、第3番、第4番、第6番

ブラームス/ワルツ 作品39-15*

ブラームス/ワルツ集「愛の歌」作品52—第6曲「かわいらしい小鳥が」*

ブラームス(コンツ編)/ハンガリー舞曲集—第7番*

ブラームス/ハンガリー舞曲集—第2番、第5番

主催:パルテノン多摩共同事業体 お問い合わせ:パルテノン多摩 TEL (042) 376-8181

3/3日 3:00pm | 成田市制施行70周年記念 NHK交響楽団 成田公演

成田国際文化会館 大ホール

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催:成田市 お問い合わせ:成田市シティプロモーション部文化国際課 TEL (0476) 20-1534

3/10日 5:00pm | N響 大河ドラマ&名曲コンサート

ハーモニーホールふくい大ホール

指揮:キンボー・イシイ ヴァイオリン:三浦文彰* ゲスト:坂田晃一 ナビゲーター:山田美也子

黄金の日日(1978/池辺晋一郎)

どうする家康(2023/稲本 響)

春の坂道(1971/三善 晃)

国盗り物語(1973/林光)

花神(1977/林光)

山河燃ゆ(1984/林光)

おんな太閤記(1981/坂田晃一)

いのち(1986/坂田晃一)

真田丸(2016/服部隆之)*

光る君へ(2024/冬野ユミ)

ヴィヴァルディ/「四季」—「春」*

スメタナ/交響詩「モルダウ」

J.シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

主催:(公財)福井県文化振興事業団 お問い合わせ:ハーモニーホールふくいチケットセンター TEL (0776) 38-8282

3/27(水) 3:00pm

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 15

3/30(土) 3:00pm

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ トリスタン:スチュアート・スケルトン 国王マレク:フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ
イゾルデ:ビルギッテ・クリステンセン クルヴェナール:マルクス・アイヒェ メロート:甲斐栄次郎
ブランゲーネ:ルクサンドラ・ドノーセ 牧童:大槻孝志 かじとり:高橋洋介 若い水夫:金山京介
合唱:東京オペラシンガーズ

ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

4/7(日) 3:00pm | The 20th Anniversary ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ウォータン:マルクス・アイヒェ
ローゲ/ジークムント/ジークフリート:ヴィンセント・ウォルフシュタイナー フリッカ:杉山由紀
ウォークリンデ:富平安希子 ウェルグンデ:秋本悠希 フロースヒルデ:金子美香
ジークリンデ:エレーナ・パンクラトヴァ 森の鳥:中畑有美子(ソプラノ) ブリュンヒルデ:エレーナ・パンクラトヴァ ほか
ワーグナー/楽劇「ニーベルングの指環」より

「ラインの黄金」—第4場「城へと歩む橋は……」~第4場フィナーレ

「ワルキューレ」—第1幕 第3場「父は誓った 俺がひと振りの剣を見出すと……」~第1幕フィナーレ

「ジークフリート」—第2幕「森のささやき」~フィナーレ、第2場「あいつが父親でないとはうれしくてたまらない」、

第3場「親切な小鳥よ 教えてくれ……」

「神々のたそがれ」—第3幕 第3場 ブリュンヒルデの自己犠牲「わが前に 硬い薪を積み上げよ……」

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

5/3(金祝) 3:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2024

東京文化会館 大ホール

指揮:坂入健司郎 ヴァイオリン:木嶋真優
ハチャトゥリアン/ヴァイオリン協奏曲 二短調
ショスタコヴィチ/交響曲 第5番 二短調 作品47

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

3/2(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ (株)NHK アート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 長村 中
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (学)NHK 学園 理事長 等々力 健
・ AXLBIT(株) 代表取締役社長 長谷川章博	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役 傍田賢治
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK 出版 代表取締役社長 松本浩司
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK テクノロジーズ 代表取締役社長 野口周一
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 内 聖美	・ (株)NHK ビジネスクリエイト 代表取締役社長 石原 勉
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎	・ (株)NHK プロモーション 代表取締役社長 有吉伸人

- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・友友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・友友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関閩商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎

- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役会長兼社長 | 古谷太郎
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・日興アセットマネジメント(株)
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長 CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也

- 三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- (株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- 三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- 三原穂積
- (株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- (学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- (株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- (株)明電舎
執行役員社長 | 井上晃夫
- メットライフ生命保険(株)
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- (株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- (株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志

- 森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- 森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- 矢下茂雄
- 山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- (株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- (株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 西村 淳
- ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- 米澤文彦
- (株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- (株)読売旅行
代表取締役社長 | 真広貴志
- リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹

- 料亭 三長
代表 | 高橋千善
- (株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- (有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田淵浩記
- YCC(株)
社長 | 中山武之
- 渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

- 会費：一口50万円(年間)
- 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
- 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花
飯塚歩夢
東條太河

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志

村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝保 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

曲目解説執筆者

木本麻希子 (きもと まきこ)

博士(学術)。東京女子医科大学研究推進センターURA(リサーチ・アドミニストレーター)。医学系の研究支援を行う。専門はプロコフィエフを中心とした20世紀のロシア音楽作品研究。おもな論文に「セルгей・プロコフィエフの音楽の暗号と芸術性——《ピアノ・ソナタ》におけるラインとコードのアナグラム」など。

田崎直美 (たざき なおみ)

京都女子大学教授、昭和音楽大学非常勤講師。博士(人文科学)。専門は近代フランスの音楽史、音楽社会学、文化政策史。おもな著書に『抵抗と適応のポルトナリテ——ナチス占領下のフランス音楽』、共著書に『音楽教育実践学事典』『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』など。

堀 朋平 (ほり ともへい)

国立音楽大学・九州大学非常勤講師。博士(文学)。専門はシューベルトを中心とした19世紀音楽、音楽思想史。著書に『わが友、シューベルト』、訳書にヒンリヒセン著『フランツ・シューベルト——あるリアリストの音楽的肖像』、共訳書にボンズ著『ベートーヴェン症候群——音楽を自伝として聴く』など。住友生命いずみホール音楽アドバイザー。

(五十音順、敬称略)

Information

『フィルハーモニー』
2023年11月号
掲載内容変更のお知らせ

本誌11月号の編集終了後、同月定期公演で指揮を務める予定だったウラディーミル・フェドセーエフ氏は、体調不良のため医師のアドバイスに従い、来日を見合わせるとなりました。このため、11月定期公演は以下のように変更となりました。

・Aプログラム(25日[土]、26日[日] | NHKホール):
指揮者を、ともにNHK交響楽団指揮研究員の平石章人(前半/スヴィドフ、プロコフィエフ、A. ルビンシテイン、グリンカ、リムスキー=コルサコフ)と湯川紘恵(後半/チャイコフスキー)に変更(本誌10頁～、53頁～)。

なお、曲目に変更はございませんでした。

お詫びと訂正

本誌『Philharmony』12月号にて誤りがございました。
お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

・28頁/70頁 Bプログラム(6日[水]、7日[木] | サントリーホール)のコンサートマスター
[誤] 篠崎史紀 / Fuminori Maro Shinozaki
[正] 郷古 廉 / Sunao Goko

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1

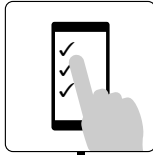


スマートフォンで右の
QRを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

.....

.....

.....

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Murao
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

- Ayumu Iizuka
- Taiga Tojo

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A**Concert No.2001****NHK Hall****January****13(Sat) 6:00pm****14(Sun) 2:00pm**

conductor Tugan Sokhiev**concertmaster** Ryotaro Ito

Georges Bizet / Rodion Shchedrin
***Carmen Suite*, ballet [44']**

- I Introduction
- II Dance
- III First Intermezzo
- IV Changing of the Guard
- V Carmen's Entrance and Habanera
- VI Scene
- VII Second Intermezzo
- VIII Bolero
- IX Torero
- X Torero and Carmen
- XI Adagio
- XII Fortune-Telling
- XIII Finale

— intermission (20 minutes) —

Maurice Ravel
***Ma mère l'Oye*,
suite (*Mother Goose*) [17']**

- I Pavane de la belle au bois dormant
- II Petit poucet
- III Laideronnette, impératrice des Pagodes
- IV Les entretiens de la belle et de la bête
- V Le jardin féerique

Maurice Ravel
***La valse*, ballet [13']**

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Tugan Sokhiev, conductor

Born in Vladikavkaz in North Ossetia of the former Soviet Union in 1977, Tugan Sokhiev studied conducting under the legendary tutors Ilya Musin and then Yuri Temirkanov at the St. Petersburg Conservatory. Since 2008, as Music Director of the Orchestre national du Capitole de Toulouse, he has contributed to the development of the orchestra, at the same time, served as Principal Conductor of the Deutsches Symphonie-Orchester

Berlin from 2012 to 2016. Furthermore, from 2014, he served as Music Director of the Bolshoi Theatre in Moscow, while making guest appearances with prestigious orchestras and at

opera houses, including the Wiener Philharmoniker, the Berliner Philharmoniker and the Royal Concertgebouw Orchestra, thus has actively worked internationally in concerts and operas. In 2022, grieved by the invasion of Ukraine by Russia, his beloved homeland, he resigned from his posts at both the Bolshoi Theatre and the Orchestre national du Capitole de Toulouse, however, even after that he has continued to be in full demand from all over the world. He has been highly evaluated for his accurate sense of style and rich interpretations such as the dynamic scale he introduces to perform Russian works, the sophisticated sense he employs to French repertoire and his full expression in an orthodox approach towards German works. He has returned to the NHK Symphony Orchestra almost every year to present delightful performances. On this visit, he will surely demonstrate his diversity in expression through three programs of French, German and Russian works.

[Tugan Sokhiev by Motoyuki Teranishi, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Georges Bizet (1838–1875) / Rodion Shchedrin (1932–)

***Carmen Suite*, ballet**

Throughout music history abundant in episodes of successful youths, late-bloomer composers are not so many, much less those who received a high evaluation only after their death. The French Romantic Bizet is one such example: he was relatively neglected during his life and died suddenly at age 36, without seeing the howling triumph of his opera *Carmen* (1875) which was premiered three months earlier in Paris.

Set in Seville, Spain, the French opera *Carmen* has all the keys for sell-out performances in opera houses: fascinating exoticism, unforgettable melodies, an ill-fated triangle around the fearless, mercurial gypsy heroine. The sensational plot – the title-role, a prison escapee now in love with a star bullfighter, gets stabbed by her jealous ex-lover Don José – paved the way for the coming realistic operas.

Among countless suites and arrangements of this hit, the one by the Soviet and Russian composer Shchedrin is by far the most original. It is, rather than a common opera suite, an inspired and free re-creation which is playful but deeply respectful toward Bizet. Shchedrin prepared it as a ballet score for his wife Maya Plisetskaya, a legendary prima ballerina. She played the role of Carmen at the 1967 premiere at Moscow's Bolshoi Theatre with the libretto and choreography by the Cuban dancer Alberto Alonso. The unique, modern sound is very likely related to Alonso's origin, as it is scored for strings – excluding the winds – and a large battery of percussion containing Latin instruments (bongos, guiro, maracas, claves).

Composed of thirteen numbers, *Carmen Suite* opens (and concludes) with chimes resounding fragments of Carmen's provocative aria *Habanera* while the opera's popular prelude (to Act 1) is heard during XIII *Finale*. The most humorous would be IX *Torero* where Shchedrin repeatedly spares the celebrated refrain of the *Treador Song* against our expectations. Besides the numbers from Carmen, VIII *Bolero* is based on *Farandole* from Bizet's incidental music to *L'Arlésienne* (*The Girl from Arles*) and X *Torero and Carmen* is *Bohemian Dance* from Bizet's opera *La jolie fille de Perth* (*The Fair Maid of Perth*).

Ma mère l'Oye, suite (Mother Goose)

The charming house that the French composer Ravel spent his last sixteen years in is known for having brimmed with toys and curiosities he collected. Fascinated by the poetry of childhood through life, he penned the opera *L'enfant et les sortilèges* (*The Child and the Spells*) and his suite *Ma mère l'Oye* (*Mother Goose*) is certainly in the same vein. A lifelong bachelor, the composer originally completed the suite as a piano duet in 1910 for the daughter and son of his best friends, a couple. He used to enjoy reading stories to the young siblings, which motivated him to compose this work based on fairytales as told by French authors including Charles Perrault (1628–1703). Ravel then made from it the orchestral suite and the ballet score in 1911.

The orchestral suite attests his renowned, perfectly judged instrumentation. I *Pavane de la belle au bois dormant* (*Pavane of Sleeping Beauty*), a brief antique dance, precedes II *Petit poucet* (*Little Thumb*) where frequent meter changes illustrate the tiny hero's wandering. III *L'aideronnette, impératrice des Pagodes* (*Little Ugly Girl, Empress of the Pagodas*) sounds oriental due to the utilization of pentatonic (five-note) scales and tam-tam (gong). IV *Les entretiens de la belle et de la bête* (*Conversation of Beauty and the Beast*) entrusts Beauty to an elegant clarinet solo and the Beast to an uncouth contrabassoon solo. V *Le jardin féerique* (*The Fairy Garden*) has a shimmeringly luxuriant denouement livened up by triangle, celesta, keyboard glockenspiel and harp.

Maurice Ravel

La valse, ballet

Ravel paid tribute to Franz Schubert (1797–1828), writing eight waltzes for the *Valses nobles et sentimentales* (1911). Five years earlier, actually, Ravel had the idea of composing a new piece to pay his respects to another Austrian master Johann Strauss II (1825–1899) a.k.a. “The Waltz King”. This homage to the 19th-century Viennese waltz – that Ravel would name straightforwardly *La valse* (*The Waltz*) – began to take shape as a ballet score in 1919 as a commission from Sergei Diaghilev for his dance company, Ballets Russes.

Hearing what Ravel completed, the Russian impresario turned it down commenting that it was “not a ballet” but “a portrait of ballet.” Instead of discarding it, Ravel premiered the version for two pianos in 1920 before the version subtitled “a choreographic poem for orchestra” was revealed the same year: up until then, the Viennese waltz became a thing of bygone days that the world could never return to after having lived through World War I. This background is often associated with *La valse*'s ominous conclusion where the rhythm of waltz, now uncontrollable, leads itself to destruction.

According to Ravel, *La valse* is “set in an imperial court, around 1855” and begins as follows: “Through rents in swirling clouds, couples are glimpsed waltzing. The clouds disperse little by little: one sees an immense hall peppered with a whirling crowd. The scene is gradually illuminated. The light of the chandeliers bursts forth at fortissimo.”

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2003

Suntory Hall

January

24 (Wed) 7:00pm

25 (Thu) 7:00pm

conductor Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 40

violin Sunao Goko*

viola Junichiro Murakami

concertmaster Fuki Fujie♦

◆ **Fuki Fujie:** After graduating from Tokyo University of the Arts, Osaka-born Fuki Fujie completed graduate school at the Conservatoire national Supérieur de Musique de Paris with top honors. She has worked with many orchestras including the Tokyo Symphony Orchestra, the City of Kyoto Symphony Orchestra and the Sofia Philharmonic Orchestra as soloist, and has also been invited to concerts and music festivals at home and abroad. In addition, she has given solo recitals as well as chamber music recitals. Since 2018, she has been violin Co-concertmaster (Co-soliste) of the Orchestre national du Capitole de Toulouse.

Wolfgang Amadeus Mozart
Sinfonia Concertante
for Violin and Viola E-flat Major
K. 364 [30']

I Allegro maestoso

II Andante

III Presto

— intermission (20 minutes) —

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 3 E-flat Major
Op. 55, Eroica (Heroic Symphony)
[50']

I Allegro con brio

II Marcia funebre: Adagio assai

III Scherzo: Allegro vivace – Trio

IV Finale: Allegro molto

* Changed from initially scheduled.

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Sunao Goko, violin



Sunao Goko, born in 1993, is one of the young generation violinists who gather most attention, and has won 1st prize in the 11th Yehudi Menuhin International Competition for Young Violinists (the youngest winner in the competition's history) in 2006. Since his debut in December 2007, he has worked with leading Japanese orchestras such as the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, the New Japan Philharmonic, and the Osaka

B

24 & 25, JAN. 2024

Philharmonic, under the batons of such conductors as Gerhard Bosse, Kazuyoshi Akiyama, and Michiyoshi Inoue. He has also been invited by music festivals, including Saito Kinen Orchestra (presently called Seiji Ozawa Matsumoto Festival) and the Spring Festival in Tokyo on a regular basis. In 2013, he won the Tibor Varga International Violin Competition, as well as the Audience Award and Contemporary Music Award. After having served as the assistant concert master of the NHK Symphony Orchestra, he has been Guest Concert Master since April 2023. He plays the 1682 'Banat' Stradivarius.

Junichiro Murakami, viola



After graduating from Toho Gakuen School of Music, he received a Japanese government scholarship on the Cultural Affairs Agency's program of Overseas Study for Upcoming Artists and went to Italy to study in Florence. He won 1st Prize at the International Competition for Chamber Music Ensembles "Premio Trio di Trieste," received a gold medal by Carlo Azeglio Ciampi, the president of Italy at the time, and was

offered opportunities to appear in about 50 concerts across Italy as well as in European cities. He was the winner of the 2008 International Chamber Music Competition "Premio Vittorio Gui" in Florence. He then moved to Germany from Italy to assume the post of Solo Violist of the WDR Sinfonieorchester Köln while appearing with the Gewandhausorchester Leipzig, the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, and the Bamberger Symphoniker as Chief Guest Violist, as well as in music festivals and chamber music concerts as a soloist and chamber musician. He has been Principal Viola of the NHK Symphony Orchestra since October 2021.

Program Notes | Kumiko Nishi

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)

Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364

Requiring plural soloists, the sinfonia concertante is a hybrid form of a solo-instrument concerto and a symphony as its name suggests. Mozart presumably composed K. 364 in 1779 or 1780 in his hometown Salzburg immediately after his artistically fruitful sojourns in Mannheim and Paris, then the foremost musical capitals.

It is unclear for which purpose K. 364 was written, nor by whom it was first performed. Mozart's father Leopold, incidentally, was an eminent violinist and an authority of violin teaching. As Mozart himself played violin and viola – the latter was particularly his favorite –, he may possibly have imagined the solo parts to be played by Leopold and him. At any rate, he treats the two solo instruments evenly, making the best of their timbral difference. Furthermore, as an exception, he divides the orchestral viola section into two, to thicken the texture.

K. 364 is inspirationally hybrid, too, for the *sinfonia concertante* as genre was all the rage in Paris when Mozart visited there, while he uses not a few orchestral writing techniques typical of the cutting-edge Mannheim school. The latter's examples are already found at the start of the first sonata movement: the fanfare-like opening with dotted rhythm and the breathtaking orchestral crescendo (right after horns and oboes introduce the second theme) which prepares the solo parts' entrance in unison. The poignant second movement in tragic C minor leads to the boundlessly cheerful finale in rondo form excluding any minor-mode episode.

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* **(*Heroic Symphony*)**

Friend of liberty, Beethoven saw Napoleon Bonaparte as the embodiment of the French Revolution's ideal. He originally composed the Symphony No. 3 in honor of the First Consul of France. After the completion in 1804, however, the German composer was disappointed at the news of Napoleon declaring himself emperor, and famously erased the title "Bonaparte" as well as the dedication on the manuscript's title-page. The symphony was eventually published under the title "*Sinfonia Eroica (Heroic Symphony)*, Composed to Celebrate the Memory of a Great Man." With regard to who is "a Great Man," experts have mentioned various possibilities including Prince Louis Ferdinand of Prussia (1772–1806) who fought in the French Revolutionary Wars.

This colossal, unconventional work was a big step for Beethoven trying to break from the traditional Classical style. The first movement in E-flat major – the home key of Mozart's above-mentioned K. 364 – is an extended sonata with an exceptionally long development. The fleeting introduction lets the whole orchestra resound only twice the tonic chord of E-flat major. Immediately after that, the cellos sing the first theme, a simple broken chord, which will be elaborately developed through the entire movement. We then hear, in the place of a mellifluous movement, a grave funeral march in C minor which is the key of, again, K. 364's slow movement.

Beethoven chose for the third movement a lively scherzo instead of a graceful minuet as he had already done in his Symphony No. 2. The trio (central) section with three horns evoking a hunting scene is a highlight. The truly heroic last movement is also unconventional as it is not a rondo but a set of variations on a theme. The theme given by the pizzicato low strings had been used previously in Beethoven's *Die Geschöpfe des Prometheus (The Creatures of Prometheus)* (1801), a ballet about the heroic Greek god who stole the fire from Zeus to give it to mankind, as well as in his *Variationen und Fuge für Klavier (Variations and Fugue for Piano)* op. 35 (1802) nicknamed *Eroica-Variationen (Eroica Variations)*.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 42

B

24 & 25, JAN. 2024

PROGRAM

C

Concert No.2002

NHK Hall

January

19(Fri) 7:30pm

20(Sat) 2:00pm

conductor

Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 40

concertmaster

Sunao Goko

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 19th from 6:45pm / Saturday 20th from 1:15pm

Ko Goto(vn.), Masamichi Yokoshima(vn.), Shotaro Nakamura(vla.), Hiroya Ichi(vc.)

Mosolov / String Quartet No. 1 Op. 24—3rd Mov. & 4th Mov.

* You may enter and leave as you please during the performance.

* Enjoy chamber music from your own seat.

Anatoly Liadov

Kikimora, légende Op. 63 [7']

Sergei Prokofiev /

Tugan Sokhiev

Romeo and Juliet, ballet suite [45']

I The Montagues and the Capulets (Suite 2 No.1)

II Juliet—The Young Girl (Suite 2 No. 2)

III Friar Laurence (Suite 2 No. 3)

IV Dance (Suite 2 No. 4)

V Romeo and Juliet before Parting (Suite 2 No. 5)

VI Morning Dance (Suite 3 No. 2)

VII Dance of the Maids from the Antilles (Suite 2 No. 6)

VIII Morning Serenade (Suite 3 No. 5)

IX Romeo at Juliet's Grave (Suite 2 No. 7)

X Masks (Suite 1 No. 5)

XI Death of Tybalt (Suite 1 No. 7)

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Anatoly Liadov (1855–1914)

Kikimora, légende Op. 63

The Russian composer Liadov departed in 1914 without witnessing the October Revolution unlike Prokofiev (mentioned below), his pupil at the St. Petersburg Conservatory. Coming from a musical family, Liadov was a composer and conductor both fortunate and skilled, as he was trained by his father who was the first conductor of the Mariinsky Theatre, before studying composition under Rimsky-Korsakov, celebrated as a peerless master of orchestration. Despite

everything, Liadov's thin catalog is absent of large-scale works, hence the epithet "miniaturist" is used to describe him. This is thought to be due to his complicated self-critical nature on one hand, while indolent on the other.

Among his expertly colorful miniatures is the tone poem *Kikimora* composed in 1909. It is, like his popular orchestral piece *Baba Yaga* (1904), based on a Russian fairy tale. *Kikimora* starts at a slow tempo with a folksy tune on English horn, followed later by the sound of celesta: the female spirit Kikimora was, according to the composer, brought up in rocky mountain by a magician whose cat regaled her with fantastic old tales as she rocked in a crystal cradle. Then comes the abrupt tempo change: Kikimora is now 7 with her head no larger than a thimble and her body no wider than a straw. Liadov's orchestra depicts here the noisy creature crying out and whistling in the daytime, while spinning flax at night with evil intentions for all the mortals.

Sergei Prokofiev (1891–1953) / Tugan Sokhiev (1977–)

***Romeo and Juliet*, ballet suite**

Romeo Montague and Juliet Capulet are likely the most famous star-crossed lovers in Western literature. The story by William Shakespeare (1564–1616) of the twosome from feuding families has inspired uncountable artists in all fields. Music world is no exception with Berlioz's choral symphony (1839), Gounod's opera (1867) and Bernstein's modern remake, *West Side Story* (1957). Tchaikovsky's overture-fantasy (1869/1870/1880) and his younger compatriot Prokofiev's ballet are surely the best-known Russian adaptations.

According to Prokofiev's reminiscences, he had originally composed for an invented happy end considering choreographic convenience. Guided by his innermost artistic intuition and following meetings with the choreographers, the composer ultimately rewrote music for the original tragic ending.

The score was written in the mid-1930s when Prokofiev, after living abroad for eighteen years, returned for good to the Stalinist USSR offering to him some carrots of fame and opportunities. Although less modernistic than before due to this historical background, Prokofiev's music excellently depicts the Bard's masterpiece both romantic and violent, both humorous and heart-rending. Prior to the ballet's first staging in 1938 in Czechoslovakia, Prokofiev compiled extracts into two orchestral suites No. 1 (1936) and No. 2 (1937). Following the 1940 Soviet first staging, the composer made the orchestral suite No. 3 (1946).

The suite performed today consists of selections from these three compilations, chosen and reordered by the conductor Tugan Sokhiev himself around all the seven pieces of Prokofiev's second suite. I *The Montagues and the Capulets* includes the most popular number of the ballet, *Dance of the Knights*: the overbearing dotted melody on violins and clarinet is accompanied by the robust low brass. V *Romeo and Juliet before Parting* is from the couple's morning scene after their first night, while grievous IX *Romeo at Juliet's Grave* relates the desperate hero's suicide and then the heroine's death. After recalling the cheerful nature of Mercutio (Romeo's best friend) at X *Masks*, the present suite ends with dramatic XI *Death of Tybalt* from the crucial scene where Tybalt (Juliet's cousin) kills Mercutio and then Romeo, furious, avenges him.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 42

The Subscription Concerts Program 2023–24

2024 01	A	Concert No. 2001 January 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Bizet / Shchedrin <i>Carmen Suite</i> , ballet Ravel <i>Ma mère l'Oye</i> , suite (<i>Mother Goose</i>) Ravel <i>La valse</i> , ballet Tugan Sokhiev, conductor	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	B	Concert No. 2003 January 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Mozart Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364 Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> (<i>Heroic Symphony</i>) Tugan Sokhiev, conductor Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin* Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola *Changed from initially scheduled.	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2002 January 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Liadov <i>Kikimora</i> , légende Op. 63 Prokofiev / Sokhiev <i>Romeo and Juliet</i> , ballet suite Tugan Sokhiev, conductor	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
2024 02	A	Concert No. 2004 February 3 (Sat) 6:00pm 4 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Johann Strauss II <i>Im Krapfenwaldl'</i> , polka française Op. 336 (<i>In Krapfen's Woods</i>) Shostakovich Suite for Variety Orchestra No. 1 — <i>March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II</i> Shostakovich Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, <i>Babi Yar</i> * ¹ Michiyoshi Inoue, conductor Alexey Tikhomirov, bass* ^{1,2} Orpheï Drångar, male chorus* ¹ * ² Changed from initially scheduled.	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	B	Concert No. 2006 February 14 (Wed) 7:00pm 15 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Ravel <i>Rapsodie espagnole</i> (<i>Spanish Rhapsody</i>) Prokofiev Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63 Falla <i>El sombrero de tres picos</i> , ballet (complete) (<i>The Three-Cornered Hat</i>)* Pablo Heras-Casado, conductor Augustin Hadelich, violin Tamayo Yoshida, soprano*	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2005 February 9 (Fri) 7:30pm 10 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Siegfried Idyll</i> R. Strauss <i>Ein Heldenleben</i> , symphonic poem Op. 40 (<i>A Hero's Life</i>) Eiji Oue, conductor	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
2024 04	A	Concert No. 2007 April 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Schubert Symphony No. 4 C Minor D. 417, <i>Tragische</i> (<i>Tragic</i>) Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68 Marek Janowski, conductor	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	B	Concert No. 2009 April 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Schumann <i>Genoveva</i> , opera Op. 81—Overture Schumann Cello Concerto A Minor Op. 129 Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61 Christoph Eschenbach, conductor Kian Soltani, cello	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2008 April 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Bruckner Symphony No. 7 E Major Christoph Eschenbach, conductor	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

(consumption tax included)

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024
05

A Concert No. **2010**

May

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Panfilii *Abitare la battaglia* [Japan Premiere]
Respighi *Fontane di Roma*, symphonic poem (*Fountains of Rome*)
Respighi *Pini di Roma*, symphonic poem (*Pines of Rome*)
Respighi *Feste Romane*, symphonic poem (*Roman Festivals*)

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,000	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B Concert No. **2012**

May

22 (Wed) 7:00pm

23 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15
Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, *The 4 Temperaments*

Fabio Luisi, conductor
Rudolf Buchbinder, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,000	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2011**

May

17 (Fri) 7:30pm

18 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Mendelssohn *A Midsummer Night's Dream*
—Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March
Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, *Reformation*

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
06

A Concert No. **2013**

June

8 (Sat) 6:00pm

9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Scriabin *Rêverie*, Op. 24
Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20
Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29

Keitaro Harada, conductor
Kyohei Sorita, piano

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **2015**

June

19 (Wed) 7:00pm

20 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Webern Passacaglia Op. 1
Schönberg Violin Concerto Op. 36
J. S. Bach / Webern Ricercata
Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485

Masato Suzuki, conductor
Isabelle Faust, violin

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,000	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2014**

June

14 (Fri) 7:30pm

15 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Ibert *Escales (Ports of Call)*
Ravel Piano Concerto for the Left Hand
Debussy *Nocturnes**
Nodoka Okisawa, conductor
Denis Kozhukhin, piano
The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

N響関連のお知らせ

いつでもどこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域によって一部番組は2週間配信



アプリで便利に！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧ください

※ 放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！

聴き逃し

放送終了後1週間/
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

役員等・団友

役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野谷公一 三溝敬志
理事	相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 笠原裕之 杉山博孝 錢谷真美 團宏明 毛利衛
監事	浜村和則 江口貴之
評議員	稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 熊埜御堂 朋子 清野智 田中宏暎 檀ふみ 坪井節子 前田昭雄 松居 侖 三浦 惺 山名啓雄 渡辺 修

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹			
岩渕一真 山田大祐 石井 康 利光敬司 高木かおり	沖 あかね 内山弥生 徳永匡哉 高橋 啓 宮崎則匡	黒川大亮 上原 静 木村英代	田内誠人 猪股正幸 吉賀亜希 三浦七菜子	野村 歩 浅田武志 山本能寛 吉田麻子 目黒重治	姫野 恵 杉山真知子	尾澤 勉
						芸術主幹 西川彰一

団友

田中 裕 鶴我裕子 徳永二男	チェロ	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正 百瀬和紀	事務局	
名譽コンサート マスター	中瀬裕道 永峰高志 根津昭義	岩井雅音 木越 洋 齋藤鶴吉 三戸正秀	青山聖樹 北島 章 浜 道晃 茂木大輔	井川明彦 北村源三 米馬 賢 関山幸弘 津堅直弘 坂本浩規 福井 功 佛坂咲千生	入江哲之 金沢 孝 北見佳織 小林文行 清水永一郎 関 照枝 中馬 究 出口修平 西村集介 芳賀由明 松崎ユリ 望戸一男 諸岡 淳 吉田博志 渡辺克己 渡辺克己	
堀 正文	堀 伝 堀江 悟 前澤 均 宮里親弘 武藤伸二 村上和邦 山口裕之 蓬田清重	銅銀久弥 丹羽経彦 平野秀清 藤井 晃 藤本英雄 茂木新緑	クラリネット	本荘玲子	ピアノ	
ヴァイオリン	板橋 健 梅澤美保子 海野義雄 大澤 浄 大林修子 大松八路 金田幸男 川上朋子 川上久雄 窪田茂夫 黒柳紀明 公門俊之 齋藤真知理 酒井敏彦 清水謙二 鈴木弘一 武内智子 田渕 彰	ヴァイオラ	コントラバス	ファゴット	理事	理事
	大久保淑人 小野富士 梯 孝則 河野昌彦 菅沼準二 店村眞積 田渕雅子 中竹英昭 三原征洋 村山 弘 宮本明恭 渡部啓三	井戸田善之 志賀信雄 田中博昭 佐川裕昭 新納益夫	ホルン	トロンボーン	曾我 健 田畑和宏 野島直樹 日向英実 木田幸紀 森 茂雄 今井 環 根本佳則	役員
				伊藤 清 神谷 敏 栗田雅勝 関根五郎 三輪純生	テューバ	加納民夫 唐木田信也 齊藤 滋 関川精二 鳴嶋郁夫 原 武 山崎大樹
					打楽器	
						有賀誠門 岡田知之

フィルハーモニー2024年1月号 | 第96巻 第1号

2024年1月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278

発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団

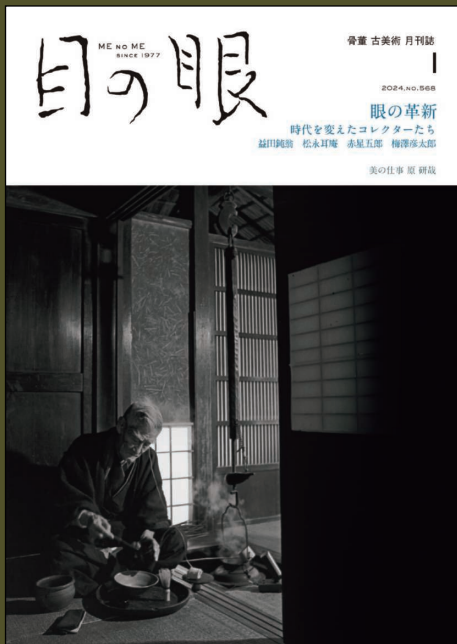
取材・編集: 株式会社アルテスパブリッシング

表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

骨董・古美術月刊誌『目の眼』



2024年1月号
特集

発売中

目の革新

時代を変えたコレクターたち

骨董・古美術は変わらないように見えて、実はとても流行に左右されています。明治期の茶の湯の変革、大正から昭和にかけての朝鮮陶磁の発展など、時代ごとにブームが起こり、人々の美意識を変える特筆すべき革新が起こりました。その背景には独自の視点をもった稀代のコレクターたちの存在があります。

2024年1月号では、「眼の下克上」を行なったユニークなコレクターたちの姿を特集しています。

定価 1,500円（税別）

雑誌紙版・電子版のお求めは

目の眼 HP Amazon 書店にて

連載 潮田洋一郎／原研哉ほか

[2024年2月号予告] 1月15日発売

特集「正宗の風 相州伝の系譜」

1000年続く日本刀の世界で、最も大きな名を遺した「正宗」。彼の作った刀がどれほど革新的であったかを検証します。

公式ウェブサイトを更新！

骨董・古美術の愉しみをWEBでもお届けしています。

menomeonline.com

定期購読&メールマガジン登録受付中



ソリストは数々の国際コンクールを制覇してきた実力派の木嶋真優。
名器ストラディヴァリウスで得意とするハチャトウリアンを披露します。
指揮者は注目の若手、坂入健司郎がN響初登場。人気交響曲のシヨスタコーヴィチ第5番をどう聴かせるか注目です。
珠玉の名曲と極上の演奏を求め、新緑あふれる上野の森へ出かけませんか？

ゴールデンウィークは、
新緑あふれる上野で極上の演奏を楽しもう！
日本最高峰のオーケストラが贈る

指揮：坂入健司郎
ヴァイオリン：木嶋真優
管弦楽：NHK交響楽団

2024 響音

ゴールデン・クラシック

ハチャトウリアン：ヴァイオリン協奏曲 二短調
シヨスタコーヴィチ：交響曲第5番 二短調 op.47

2024年5月3日(金・祝) 15:30開演(14:45開場)
東京文化会館 大ホール S 8,000円 A 7,000円 B 6,000円 C 5,000円 D 4,000円(税込)

チケットの
ご予約

- 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp>
- チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/nhkso-goldenclassic/> (Pコード:256-829) セブン-イレブン
- ローソンチケット <https://t-tike.com/nhksogolden2024/> (Lコード:34691) ローソン、ミニストップ店内Loppi
- イープラス <https://eplus.jp/nhkso-golden2024/> FamilyMart店舗

お問合せ：サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(平日12:00~15:00) ※チケットの取扱はございません



主催：MIYAZAWA & Co.

※未就学児童の入場不可。※都合により、出演者・曲目が変更となる場合がございます。

東京
春祭

20th
Spring Festival in Tokyo

指揮: マレク・ヤノフスキ
Conductor: Marek Janowski

トリスタン: スチュアート・スケルトン
Tristan: Stuart Skelton

マルケ王: フランツ・ヨゼフ・ゼーリヒ
König Marke: Franz-Josef Selig

イゾルデ: ビルギッテ・クリステンセン
Isolde: Birgitte Christensen

クルヴェナール: マルクス・アイヒェ
Kurvenal: Markus Eiche

メロート: 甲斐栄次郎
Melot: Eijiro Kai

ブランゲネ: ルクサンドラ・ドノーセ
Brangäne: Ruxandra Donose

牧童: 大槻孝志
Ein Hirt: Takashi Otsuki

舵取り: 高橋洋介
Ein Steuermann: Yosuke Takahashi

若い水夫の声: 金山京介
Stimme eines jungen Seemanns: Kyosuke Kanayama

管弦楽: NHK交響楽団
Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ
Chorus: Tokyo Opera Singers

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン
Musical Preparation: Thomas Lausmann



Marek Janowski © Felix Broede

(演奏会形式 / 字幕付)

全3幕 上演時間: 約5時間 (休憩2回含む)

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

トリスタンとイゾルデ

2024

3.27 [水] 15:00 3.30 [土] 15:00

March 27 [Wed.] 15:00 / March 30 [Sat.] 15:00

東京文化会館 大ホール

Tokyo Bunka Kaikan, Main Hall

S ¥26,500 A ¥22,000 B ¥18,000

C ¥14,500 D ¥11,500 E ¥8,500 U-25 ¥3,000

※U-25は2月15日[木] 12:00発売 (音楽祭公式サイト限定取扱)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 後援: ドイツ連邦共和国大使館、日本ワーグナー協会
助成: 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス

www.tokyo-harusai.com

(座席選択可・登録無料)

チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

N響ガイド 0570-02-9502

WEBチケットN響 <https://nhkws.pia.jp/>

M.ヤノフスキ指揮 ワグナー「ニーベルングの指環」ガラコンサート
4.7[日]15:00 東京文化会館も好評発売中

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

050-3496-0202 (月・水・金 10:00-15:00)





特別ゲスト：高橋英樹



ゲスト：坂田晃一



ナビゲーター：山田美也子

指揮：キンポー・インイ
ヴァイオリン：三浦文彰*
管弦楽：NHK交響楽団

本家本元が贈る大河ドラマ・テーマ曲集

N響音

大河ドラマ

&名曲コンサート

Taiga Drama & Masterpiece Concert

2024年3月9日[土] 4:00pm
東京芸術劇場 コンサートホール

(池袋駅西口 徒歩2分) 2時間程度の公演です

発売開始日 2023年11月22日[火] 10:00am (一般発売)
2023年11月22日[水] 10:00am (定期会員先行発売)

料金 全て税込 / 全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥9,000	¥8,000	¥7,000	¥6,000
ユースチケット(25歳以下)	¥4,500	¥4,000	¥3,500	¥3,000

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
N響ガイド 0570-02-9502
東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 www.geigeki.jp/t/
チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
e+(イープラス) eplus.jp/nhkso
ローソンチケット l-tike.com/nhkso

主催：NHK交響楽団 後援：豊島区

曲目
[第1部 大河ドラマ編]
黄金の日日 (1978/池辺晋一郎)
どうする家康 (2023/稲本響)
春の坂道 (1971/三善晃)
国盗り物語 (1973/林光)
花神 (1977/林光)
山河燃ゆ (1984/林光)
おんな太閤記 (1981/坂田晃一)
いのち (1986/坂田晃一)
真田丸 (2016/服部隆之)*
光る君へ (2024/冬野ユミ)

[第2部「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]
[四季]—「春」(ヴィヴァルディ)*
交響詩「モルダウ」(スメタナ)
ワルツ「美しく青きドナウ」
(J.シュトラウス II世)



©白土吉枝

©Yuji Hori

*ユースチケット(25歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
初回ご利用時に年齢確認のためのコース登録が必要となります。
詳細はN響ホームページをご覧ください。

*定期会員割引：先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

*車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

*N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

*未成年者のご入場はお断りしています。

*やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

*公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm (定休日：土・日・祝日)

Follow us on



nhkso.or.jp



脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社